

母 語 (6)

三 惣 橋 倉

○いゝ季節になりました。わが子の健康増進に最も都合のいゝ季節になりました。○この頃は、わが子の教育について、いろ／＼と新しい問題が考えられるが、それに追われて、尋常普通の大事を忘れてはならない。それは、健康である。

○しかも、時節柄、それが決して良い條件下にはおかれていない。榮養が悪い。環境が悪い。レクリエーションの途が少ない。母の十倍百倍の努力なしには、わが子の健康は、常の如くあり得ない。

○それも、たゞ一通りの健康で病氣にならねばいゝという今日ではない。今日の子ども健康は、日本再建の何より大切な要件だ。ありあまるほどの健康でいて貰わなくてはならない。

○その健康のもとには、日光と空気に充つる戸外の運動だ。それは、いわば、どこにでもあり、誰れにでも得られるものだ。ところが、それを無駄にすることが多い。戸外最適の季節である今日、勿體ないことである。

○折角の、日光、空気が、戸外運動も、着物が重く、身體を包み、またおしつけていては、その健康効果は、全くへる。厚着は、日本育児法の最もよくない弊害である。薄くせよ、短くせよ。日光と空気に皮膚を直接に親ませよ。それにはいゝ簡易生活の此頃、思い切つて斷行するがよ。

○着物の簡易軽快は、運動を軽快にする。運動の軽快は、心を快にする。快活な毎日は、性格を明朗にする。明朗は心の健康の結果でもあるが、ともでもある。その明朗こそ、此の季節の大切な特色である。晴れた日、澄んだ空、爽かな風、明朗ならざらんとするも得ずといつていゝ位である。

○秋の季節の明朗と相待つて、子どもの健康増進に大関係のあるのは、生活感の明朗である。子どもの生活感、本來が明朗であるものだが、それが、いろ／＼のことで、曇らされ、かけつけられていゝものも、日本的兒童教育法の最もよくない弊害である。教えるといつては、こま／＼しく、可愛がるといつては、しつ／＼と、叱るといつては、困苦しい。あつさりせよ。さつぱりせよ。自由を多くせよ。笑いを多くせよ。軽快、快活、明朗の環の境内に、のび／＼と心を、従つて身體をも、健康に發達させよ。

○民主主義といふことには、いろ／＼の原理もあり、畏所もあるが、その一番明瞭な特性は、明朗といふことである。人間がひとり／＼、無用の束縛、無用の壓迫、それから出る、無用の恐怖、無用の遠慮、そういうことなしに、のびのびと生きてゆけるのである。それに、衣食住生活の無用な、まんがなくてすめば、眞の民主主義極樂だが、このがまんはどうも免れ難い日本の子どもとして、無用の恐怖や、無用の遠慮でその健康の一角をも抑え妨げないようになりたい。心の軽快明朗がなくては、天高く空澄みわたる秋の明朗も、充分子どもを健康にし得ない。